

「● <新しい動き>

江戸後期史学関係総合データベースの公開にあたって

図書館専門員 上原 正隆

菅文庫とデータベースの概要

茨城大学附属図書館の重要なコレクションのひとつに菅文庫がある。菅文庫は水戸の史学者、菅政友（1824-1897）が収集した蔵書で、国書約 3,500 部（8000 冊）、漢籍約 500 部（2000 冊）からなり、国学、文学、儒学から医学まで幅広い学問分野を収めた文庫である。

附属図書館では、菅文庫の中から重要と思われる史料を電子画像化してデータベースを作成し、広くインターネットを通して公開することを目的として、昨年度、日本近世史・国語学・国文学・中国哲学等の研究者からなる江戸後期史学関係総合データベース作成委員会を組織した。5 ヶ年で約 1,000 冊を収載する電子画像データベースの作成計画を立案し、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を申請し、今年度その交付が決定し、データベースの作成に着手した。また、附属図書館事務部内に電子図書館推進ワーキンググループを組織し、データベース作成委員会の実務を補助させた。

資料の選定

「江戸後期史学関係総合データベース」の作成に当たり、稀覯書の一部と「茨城大学附属図書館蔵菅文庫国書目録」の「七. 歴史」の項から、合わせて約 130 部（約 200 冊）の選定を行った。国書の選定基準は次のとおりである。なお、損耗の激しいものは除いている。

1. 江戸時代後期に刊行または筆写されたもの。ただし、あまり大部のもの、ないし、すでに活字化されていて閲覧が容易なものは除いたものもある。
2. 水戸学関係のもの。
3. 菅政友が筆写したとみとめられるもの。

データベースの作成と公開方法

選定された史料の電子画像ファイルの作成手順は次のとおりである。まず、原資料をモノ

クロマイクロフィルムに撮影し、作業用フィルムとしてデュープフィルムを複製した。ついで、デュープフィルムからフィルムスキャナーを使い TIFF 形式の保存用電子画像を作成し、さらにモノクロ2値の公開用電子画像に変換した。公開用電子画像については、一般に普及した PDF 形式をベースとし、インターネットでの配信を考慮して、10 コマ単位でマルチファイル化した。

選定史料に含まれた稀覯書については、マイクロフィルムの撮影をカラーで行い、JPEG 形式で公開用電子画像の作成を行った。

こうして作成した画像ファイルは約 10,000 コマにのぼった。なお、PDF、JPEG 画像のほかに、まだ普及度は高くないが、ファイル圧縮性能の高い DjVu 形式の画像を同時に作成し、試験的に提供する予定である。

データベースの公開は来る3月中を予定している。利用制限は設けず、附属図書館のホームページ（<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>）からインターネット上で広く公開する。次ページの図を参考にデータベースにアクセスして利用していただきたい。

今後の課題

菅文庫の全容を把握するための目録として、故長澤規矩也先生編纂の「茨城大学所蔵菅文庫漢籍分類目録」、田口守先生編纂の「茨城大学附属図書館蔵菅文庫国書目録」、橘豊先生編纂の「茨城大学附属図書館蔵菅文庫（国書）書名索引」の3点が刊行されている。いずれも電子画像化を行い、附属図書館のホームページ上で提供してきたが、今回のデータベース化の中でこれらの目録を書誌事項や分類から検索可能にするため、一部のテキストデータ化を行った。今後サーバ環境の整備を進め、早い時期にキーワードによる検索機能を提供したいと考えて

いる。

最後に、「江戸後期史学関係総合データベース」に収載した電子化資料を通して、今後の歴史学研究の一助とできれば幸いである。

参考文献

水戸の先達, 水戸市教育委員会, 2000.3
図書館だより, 菅井正三, 学園だより 26 号, 1975
(うへはら・まさたか)

